

幻の広浜鉄道 遺構今福線について その2

嘉藤太史

1. はじめに

今福線研究分科会も2年度目となり、大体は分かったと思っているつもりであるが、時期や出会いにより得られる情報は異なる。今福線はまだ奥の深い鉄道である。

さて、今年度行った行事をまとめると以下の通りである。

・平成23年7月30日(土)

打ち合わせ会 於コスモ建設コンサルタント

内容：昨年度の成果は下記の通りである。

- ①遺構を調査し、遺構の場所、状態を把握した。
- ②眼鏡橋「おろち泣き橋」の命名。
- ③佐野町公民館だよりに「おろち泣き橋」が掲載されていた。
- ④「広浜鉄道」が石見ケーブルテレビで取り上げられた。
- ⑤「おろち泣き橋」碑が建立された。

「おろち泣き橋」命名により一気にはずみがついたような感じである。

以上より、今年度の課題、活動内容を整理した

- ①地元自治会との連携は良かった。更なる連携強化の可能性を探る。
- ②遺構の安全性、耐久性の把握
- ③遺構の維持管理、保存方法
- ④閉鎖されたトンネル等の公共利用への可能性
- ⑤また、観光施設としての可能性
- ⑥情報発信の可能性、方法
- ⑦イベント等の可能性
- ⑧交通アクセスの整備の可能性 等々

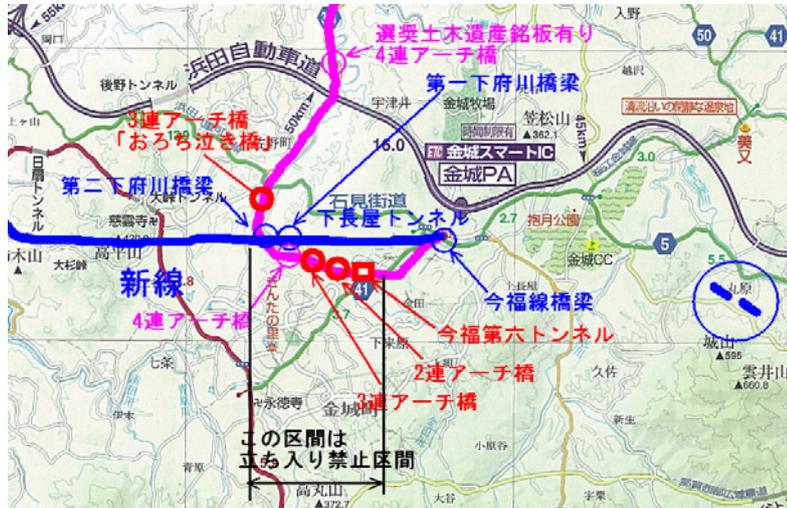
議論の中で、技術士会の活動の中で何が出来るかと言うスタンスで、今福線がどこにあるか、各々の遺構がどの場所にあるか、それを整理しマップとした方が世に今福線の存在を知らしめる最適な方法=地元貢献である、と言う結論に達した。

そのために今年度の活動内容として以下の通りとした。

- ①「立ち入り禁止区間」となっている区間を踏査し、この区間に3つあるアーチ橋を調査する。恐らく草木が繁茂し足の踏み場もないことが予想されるため、下記の本調査の前に先遣隊を派遣し歩き道を開拓する。その日を11月5日とした。
- ②11月19日、20日を本調査の日とし全員による本調査と、地元自治会の皆さんとの会合を持つ、及び国鉄職員の浅利寺住職さんへのインタビュー(これは諸事情により中止となった)の実施と、盛りだくさんの内容となった。

2. 先遣隊の作業

11月5日はあいにくの雨模様となったが、雨降って地固まる、の例えよろしく作業を終えた頃に雨が上がった。踏査区間は下図の立ち入り禁止区間である。



有名な4連アーチ橋から入り3連アーチ橋、2連アーチ橋と進んでいった。やはり草木が繁茂し、鉋を振るいながらの行軍となった。下記写真は先遣隊の面々である。一番右端の方が(○印)今回、大変お世話になった佐野町在住の石本恒夫さんである。常に我々の先に立ち、鉋やのこぎりでバッサバッサと切り倒し道をつけておられた。ご高齢にも関わらずこの体力と情熱には頭が下がる思いである。



道無き道を進む

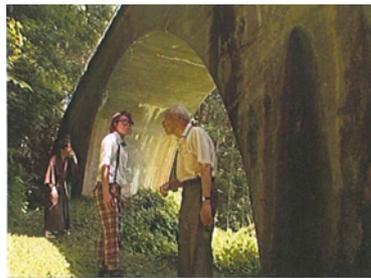


先遣隊の面々

また、石見ケーブルテレビ「謎の建造物を探れ！幻の鉄道“広浜線”」で、今福線の歴史、特徴、遺構としての価値を説明されていた(下記は放送の抜粋)。



石本さん (中央)



現地案内で眼鏡橋へ：音について説明中



「おろち泣き橋」：碑が建立

3. 本調査について

本調査は11月19日(土)と20日(日)に亘って行った。どうも日頃の行いが悪いのか雨男がいたのかどうかは定かではないが、19日は雨模様であった。午前中、先遣隊が切り開いた道を辿り、アーチ橋の調査を行った。

下の写真は旧線の4連アーチ橋の下に入った時の写真である。おろち泣き橋と同様な現象(頭上の橋桁の中で水が流れているように聞こえること。立つ位置によって聞こえたり聞こえなかったりする。自然の悪戯である。)が確認された。



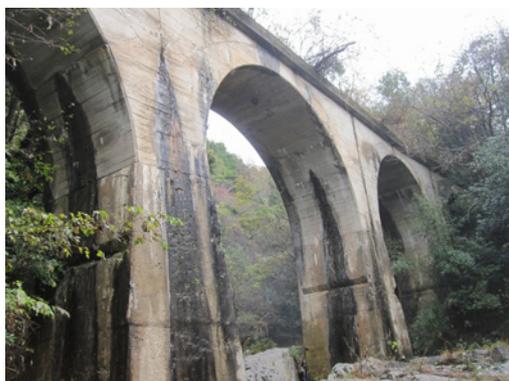
「ここにも泣き龍がいる!？」



手前が旧線の4連アーチ橋、向こうが
新線の第一下府川橋梁

「やはり・・・」と思うわけであるが、おろち泣き橋があちこちにあっても希少価値が失われるので、ここの泣き龍は封印しておいたが良いと思う。

次の写真は一つ上流の3連アーチ橋である(実際は4連のようである)。



3連アーチ橋：下流から上流を望む



上流にあるせせらぎ

下流の4連アーチ橋にもあるが橋脚部にくびれがある。これが何のためにあるのかは不明であるが今後の調査が楽しみである。また、上流にはせせらぎがあり、水量が減少すれば川遊びができるような場所である。

このアーチ橋下に降りるには少々、きつい斜面を降りて行かなければならない。そのための登坂路を付けなくてはならないだろう。

次の写真は上流の2連アーチ橋(実際は4連のようである)と、今福第六トンネル(中央は石本さん)である。上方の横長の構造物は用水管である。サイフォン形式

であり、両側に円筒形の構造物をたてその底面同士を繋ぎ水位差で水を流すものである。しかし、内部に土砂が堆積し使用不能となったため塞ぎ、この間を管路で繋いでいる。



2連アーチ橋



今福第六トンネル

以上、調査してきたわけであるが、この立ち入り禁止区間の所以は草木もあるが各アーチ橋に防護柵がないことも原因であると考えられる。第一下府川橋梁はそれでも両側に手摺り(実際には腐食破断して危険なヶ所がある)があるので下に落ちる危険性は少ないが、この区間を整備し散策道として使うのであれば何らかの安全対策が必要である。また、雨の日は下がぬかるんで歩きにくいので碎石等で地盤を強化することが必要だろう。

さて、このアーチ橋群の使い方であるが第一下府川橋梁～下長屋トンネル～今福第六トンネル～2連アーチ橋～3連アーチ橋～4連アーチ橋～第一下府川橋梁というように連続させて散策道や催し物の場所として使うのも一つの方法であろう。そのためにはまず費用が必要となる。

現在、今福線の管理は市の管轄であるが整備、補修等の費用は出ていないと思われる。放置すれば、特にトンネル等は何れ崩落の時期が来ることになるので、そうならない内に予算措置を講ずるべきだろう。そのためには整備に値する資源(観光等)にする必要がある。

4. 地元自治会との懇談会

19日午後からは地元自治会との懇談会を行った。席上、石本さんから「この会を“今福線を語る会”と命名したい」との提案があり、満場一致で決定した。

さて、地元には分科会の方から次の議題を提示した。

- ①今福線の維持保存について地元のお考えをお聞かせ下さい。
- ②今福線をもっとアピールするような方策をお持ちでしょうか。
- ③技術士会では今年度「今福線マップ」を作成予定です。技術士会に期待することはありますか。

これに対し、地元からは次の意見があった。

- ・この鉄道跡を見に遠くから来る人がいること。
- ・第二下府川橋梁～下長屋トンネルは地元で維持管理している。年2回の草刈りと旧鉄道土手へ桜木を植えたこと。
- ・おろち泣き橋が木で隠れたので遠くから見えるように伐採した。
- ・看板を立てて貰いたい。

- ・宣伝して欲しい。
- ・市に働きかけて欲しい。
- ・観光協会も金がない
- ・マップを作るのであれば地元の了解が必要である。等々。

地元は技術士会に多くを期待しており金策もお願いしたい、ような雰囲気であった。しかし、技術士会もお金が有るわけではないこと、まず地元が動かなければ何も始まらない、ことを説明した。



今福線を語る会 会合

実際、例えばおろち泣き橋に行ったことがあるのか、問うてみたが場所すら知らない人もいた。これではケーブルテレビでいくら熱心に宣伝してみても、訪れた人に場所の説明さえ出来ないことだろう。

とにかく大きなことは出来ないので、出来るところから（手作りの看板等）から始めよう、ということになった。

最後に分科会の方から地元に対し下記の提案を行った。

- ・今福線マップを作成する予定があること
- ・作成する際に地元の皆さんに協力をお願いしたいこと
- ・来年度中にマップを作成すること
- ・完成した時には地元マップを配布すること

言ったからにはやらなければならないので、来年度は更に気持ちを引き締めて事を進めなければならない。

さて、会に先立ち昼食の準備を行った。今回、小村ソバリエに蕎麦打ちをお願いしたところ気持ちよく引き受けて頂いた（そのために現地調査にいけなくなったこととお詫びします）。また地元からは漬け物やおはぎ等準備して頂き、地元と和気相合の中で昼食を取ることができた。



左より、小村ソバリエ、寿会会長さん
石本さん



和気相合とした昼食風景

寿会会長さんは非常に話し好き、闊達な女性である（さすがのソバリエも脱帽したとのことである）。

この会長さんは地元の名所旧跡を説明する役目を果たしておられ、まだまだ地元には沢山の価値ある場所があるがそれを本気になって宣伝しようとする男性陣にやきもきしている、との印象を受けた。何れ、石本さんや会長さんは引退される時がくるだろうが、その時までには後継を育てておかなければならない。

5 . 最後に



ミステリーサークル？



碑と侵入防止柵

左の写真は第二下府川橋梁から眼下に見えるミステリーサークルである。11月5日の先遣隊時点では無かったものである。この付近でラブロマンスがあったのか、それとも我々に対するアピールなのか……。何にしても訪れた人を楽しませてくれるものと肯定的に捉まればなかなかのものである。よほどの技量の持ち主に違いない。

右の写真はおろち泣き橋の碑である。背後をよく見ると柵がしてある。これも11月5日時点ではなかったものである。この柵はおろち泣き橋を含む上下流の川側路肩に設置されており、泣き龍を聞きに降りる入り口にもある。入り口は針金で止めてあり簡単に外すことは出来るが降りづらくなっている。この柵が設置された意図は不明であるが、泣き龍を聞きにきた人が聞けずに帰るようだと地元にとって大きな損失になる。早急の対応を求めたい。

さて、今年度は地元との交流拡大実現と来年度の目標＝今福線マップの作成と、成果を挙げたがこれからが正念場である。どのようなマップを作成するか、また地元との交流＝今福線を語る会の継続と、責任は大きい。

以上